

論点（都市形成について）

- 帯広市は「都市と農村が調和したまちづくり」という考え方のもと、市域を北から南にかけて、都市地域、農村地域、森林地域、自然公園地域に区分し、秩序ある土地利用、計画的な市街地の形成を図ってきており、十勝川、札内川及び、帯広の森などに囲まれた人口集中地区に総人口の約 90%が居住している。

※第六期帯広市総合計画における都市形成の基本方向

都市地域	・市街地の拡大の抑制を基調に、市街地内の未利用地の利用を促進し、良好な住環境の整備をはかり、公共交通などで結ばれるコンパクトで持続可能なまちづくりをすすめる。
農村地域	・優良な農地を維持・保全し、安全で良質な農畜産物の生産をすすめるとともに、農村地域の魅力を活かした定住の促進や都市と農村の交流をすすめる。
森林地域	・林業の振興をはかりながら、森林の適切な管理・保全をすすめるとともに、自然とのふれあいの場として利活用をはかる。
自然公園地域	・豊かな自然環境や美しい景観の保全に努める。

- 一方、他都市の事例にあるように、人口集中地区の点在や、無秩序な市街地の形成は見られないものの、人口減少に伴い、人口密度が低下してきている地区も見られる。

<論点>

- こうした状況を踏まえ、帯広市の今後の都市づくりをどう進めていくべきか。